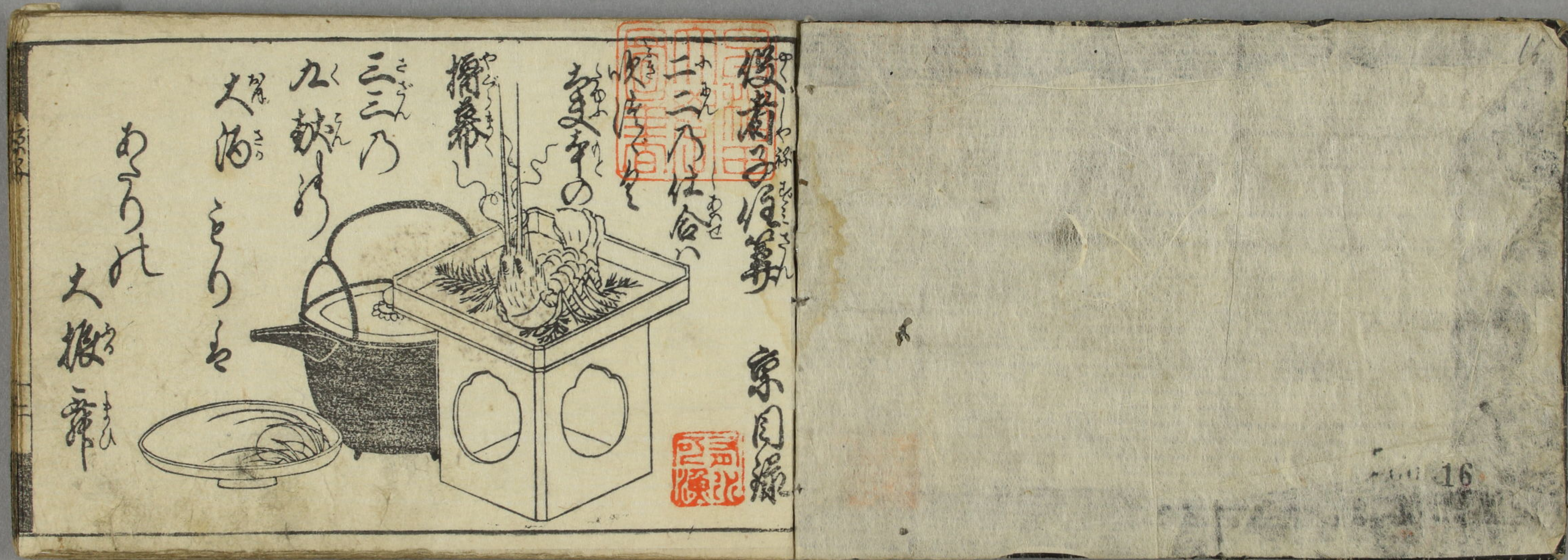
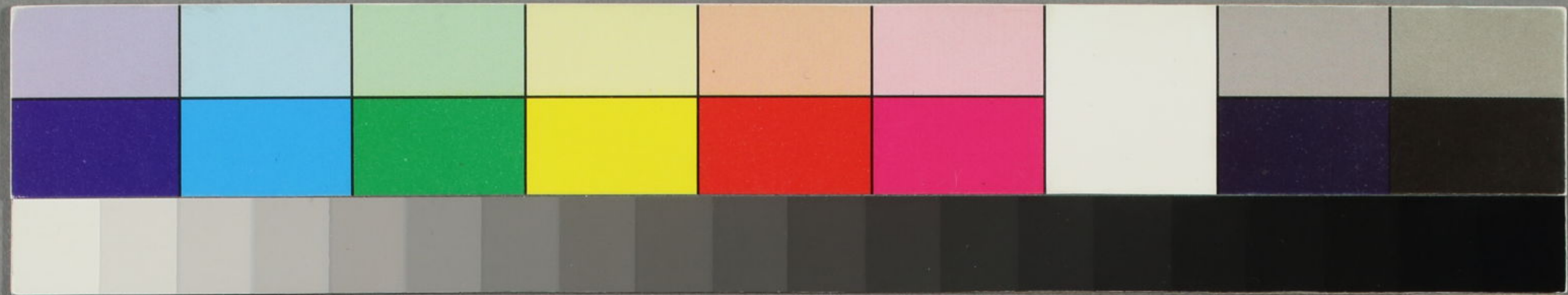


江戸の銀
あどきき ちんぎん
 後上
えんげい
 蔵
えんげい

本
三十
 本

特 別
 子 13
 3849
 16





後者子恒集

京月録

二二乃仕合

雙子の

揚幕

三三乃

九秋乃

大酒

あさりれ

大振舞

16



四八二十ふりゝあつゝ
實りは乃傳云

一七グセまの

紀傳を

安徳實の

多のうらゝ

後男なる

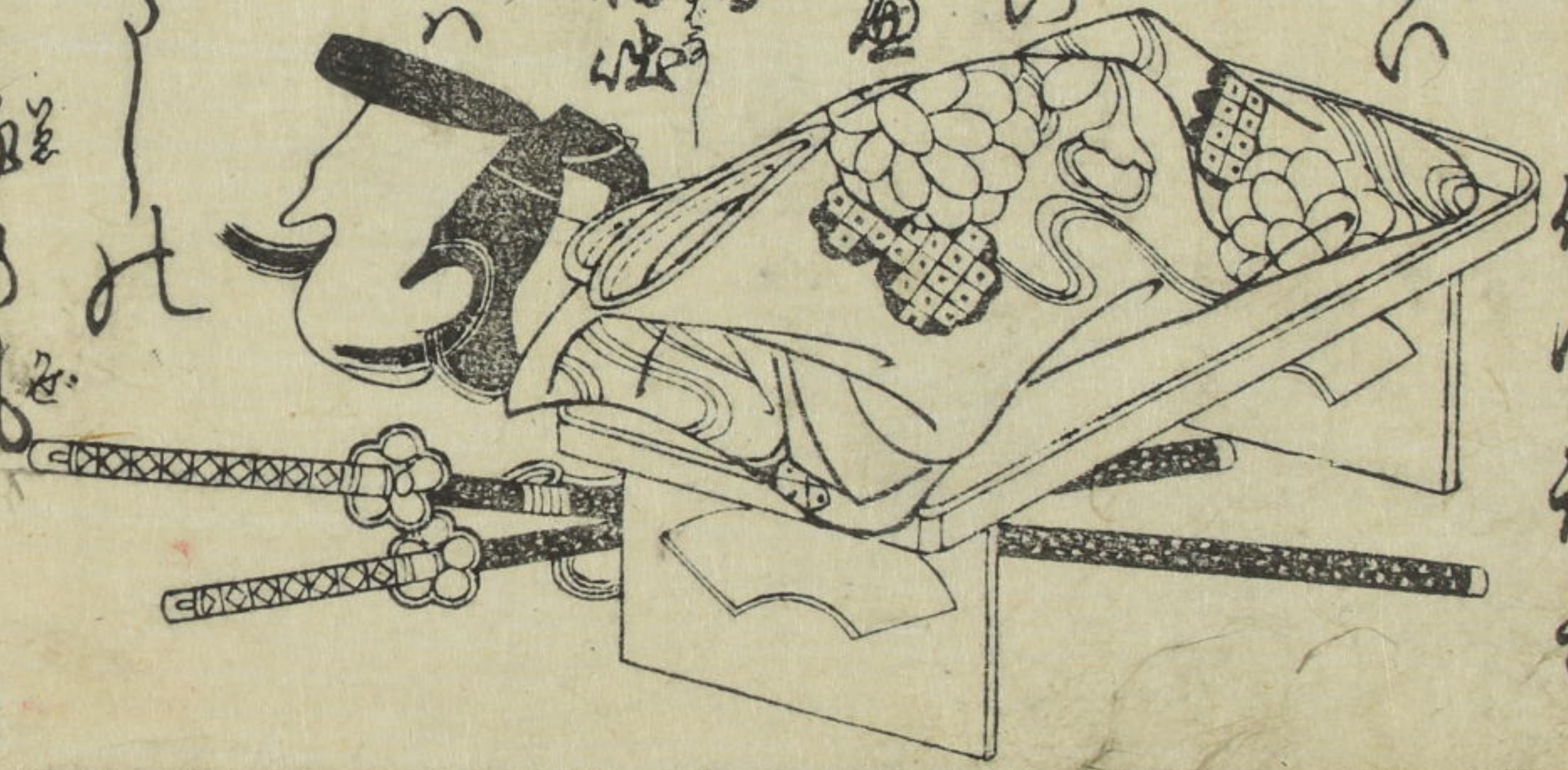
鐵梅は

二三の六法

口代乃

あゝれ

おの風



系二五居後役者同録

系代傳子左衛門尉左衛門尉松之助
系代右衛門尉左衛門尉中村余吉

▲立役之部

○二五紙屋全の七月十日の御舞

上吉 嵐 三右衛門 庄親

佐藤六番園ととの也刀許

柿山定良之助 中村左

上吉 秋野守之助 日産

おの風あゝのあゝのあゝのあゝの

上吉 嵐山十市 庄親

おの風のあゝのあゝのあゝのあゝの

上吉 後園大右衛門 日産

おの風のあゝのあゝのあゝのあゝの

上吉 竹中半兵衛 中村左

おの風のあゝのあゝのあゝのあゝの

上上書 深松七三郎 中村

上上書 大和山 中村

上上書 今村七三郎 日産

上上書 氏名 中村

上上書 沢村 中村

上上書 氏名 中村

上上書 實 中村

上上書 及川 中村

上上書 三保 中村

上上書 中村 中村

▲教役之部

上上書 益 中村

上上書 中村 中村

上上書 柿山 中村

上上書 坂東 中村

上上書 桐山 中村

上上書 小倉山 中村

▲道介形之部

上上書 小倉山 中村

及川

上上

芳波宮前七 中村
嵐動十前 日産

上上

▲夜車飛之部
夜車飛之部 中村
五川派之部 中村

上上吉

一原園久榮 日産
中村

上上吉

三線万勝 中村
中村

上上吉

中村赤代三前 日産
中村

上吉

風より舞へる 中村
佐野川夜書 日産

上上吉

生鳥 柳木 日産
中井吉弥 日産

上上吉

あま原之助 日産
有の三子のあま原之助 日産

上上

嵐原三前 中村
中村久米吉成 日産

上上

中村久米吉成 日産
中村

上上

中村

上上

萩原十代力 日産
中村

上上

中村

上上

中村

上上吉

中村

上上吉

中村



幸五郎

おん

おん

大いん
小徳六
金平あや

仕合

小向の
あびせの
甲一

吉文字
徳四の三
あて

假若の
あて

孫す
あて

あて
あて

あて
あて

右内ねらねも久しと暮成れ午のあ
り候れ一全割之り世も見知のこ
般友達又兼も相好し各の心う若
かへば方こひもゆまきる。鬼角成夜
身のことと真の親まもさ。心並
へ拙者も信合と他人刺近うり
他人信もも力も好あつて比こ
まれば心もゆよ。因らと前成立
向の拙者家来と。後友よ。世と
後よ。病危い。あ物の甚。而。他。ゆり
見や。こひ。後。合。あ。こ。こ。十。計。と。見
ゆれば。今。が。後。者。の。死。候。り。女。房。が
夜。の。表。せ。り。の。西。作。の。踊。の。ほ。り
お。世。一。白。粉。こ。と。れ。何。せ。り。と。て
お。月。さ。げ。ん。お。世。の。もの。洋。あ。り
け。せ。ど。漱。川。の。の。せ。り。常。房。の。う。ひ
あ。せ。も。甚。い。づ。り。も。と。な。せ。お。世。の。ま。ま
ま。お。は。あ。洋。の。馬。猫。石。木。山。と。け。せ。と
ゆ。よ。二。の。室。お。そ。の。ぬ。ゆ。ゆ。い
ん。を。も。そ。と。ま。房。で。い。ろ。の。お。で。こ。入
御。り。お。この。そ。の。の。あ。く。あ。の。ま。ま。よ
二。八。十。六。で。つ。い。を。を。や。み。の。女。の。こ。ね。よ
一。衣。止。を。着。せ。り。ん。と。う。と。こ。と。こ。と。こ。と
あ。く。と。お。て。洋。と。折。げ。ば。と。の。平。り
ゆ。一。と。や。あ。の。浦。と。う。海。と。う。の。あ
り。の。忽。ち。湯。と。お。世。大。行。せ。り。ん。と
も。あ。され。る。あ。く。中。夜。の。こ。下。の。ま。ま。あり。
流。之。川。又。月。夜。の。因。ら。ゆ。て。山。と。常
ゆ。せ。あ。ま。ま。あ。ぬ。も。人。も。眼。前。に。寄
特。に。身。の。言。の。洋。と。う。不。思。辰

去るがごとく二百枚にけりての二本判
一の出ぬもかきぎ卒の終れんをきく
方のあつたかきも不思議ともしひ
かきく運し出た後(毎世六流之天おん
こゝ元日くまのの流りては)是よの
ての流りのお流しとさきかき惜みせ
れ流細紙中より見れば是も女をせし
久私りの無細流心後若の采今日不
思義よりまもぬのあかしとせり
中し若の役若よまゆる夜若の初
後世の別斗よ都来るの月金
務流れとせしは是も天我流神よ
以まよるれそら月流心とる乳母
が流の白流の南流之今き甲子年
かれは元よまゆる毎月十二流づの

みとぬ一遺付出世まこととの
よる声よまゆるかき今日思ひ
も思ぬはは合と流る流之と直接
なまよるあつたそれのまゆの流
ままよるまゆの流かよるまゆの
拙若が先代流る祖又まゆの金流
せ流れしは流るよまゆの流流又一
名は流れとてまゆとまゆの流
づまゆの流の流生し流るよまゆ
一流のまゆまゆまゆまゆの流て流
てもまゆまゆとまゆまゆの流
もそれよるまゆは合まゆもまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆの流乃
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ
とまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

若狭初面箱 鼠 七

おたけりニ
中村園美

そのひりニ
五斗吉保

大和の
大和の



つみちりニ
今村七三郎

おたけりニ
甘徳橋本

大和の
三保本橋

大和の

おたけり
つみちり
大和の

大和の

おたけり

おたけり

おたけり
依能川義孝

おたけり
八江十内

おたけり
大和の

おたけり
万松美丸

おたけり
申村の

おたけり
万松美丸



おたけり
八江十内

おたけり

おたけり
あまの

おたけり

おたけり

おたけり

おたけり

一、（一） 此物...
 一、（二） 此物...
 一、（三） 此物...
 一、（四） 此物...
 一、（五） 此物...
 一、（六） 此物...
 一、（七） 此物...
 一、（八） 此物...
 一、（九） 此物...
 一、（十） 此物...

上吉 （一） 益國 大吉 尤佳

（一） 此物...
（二） 此物...
（三） 此物...
（四） 此物...
（五） 此物...
（六） 此物...
（七） 此物...
（八） 此物...
（九） 此物...
（十） 此物...

（一） 此物...
（二） 此物...
（三） 此物...
（四） 此物...
（五） 此物...
（六） 此物...
（七） 此物...
（八） 此物...
（九） 此物...
（十） 此物...


 入大の屋
 申村彦
 叔父也

志子のめい
 益重九郎

大正

みやぎの
 俊尾元三郎



大八
 坂東屋

ひえ保徳
 市のやんき

小松七三郎



三條万揚

二夜
 ちりや
 右川平九郎



五七のたつこ
 民権のたつこ

二夜
 ちりや
 萩原三郎



形心也... 乃介形之部

上止 匪 小倉山... 乃介形之部

▲於車形之部

上止 於海路之部

上止 木 五川 沃之部

乃介形之部... 乃介形之部

▲若女形之部

上上吉 團 辰 畧 久 乘 乃 在

乃介形之部... 乃介形之部

高野山に於ては、此の如く、
がまゝに、
上上



鳳 辰三郎 中村

此の如く、
上上



中村 辰三郎

此の如く、
上上

此の如く、
上上



中村 辰三郎

此の如く、
上上



中村 辰三郎



中村 辰三郎

此の如く、
上上

此の如く、
上上

たぬとておぼしめしつゝまゝに三
つまたぬぼれぬおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ



上 葉崎万代 中野



上 竹中いろは 日産



上 尾川万三郎 丸尾



上 大和山元 栄 日産

○日人の志道二事ありては本傳及ハ
りしつゝおぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ

おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ

上吉



後尾元 常 中野

おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ
おぼしめしつゝおぼしめしつゝ

きつたまはまゐるひあてて下流はあ
るりの美入はりの名にせてある橋

▲若丸形之部

上上 由 井家町之市 出資

上上 花保之の久 尾花

上上 尾門之助 日産

上上 沢川虎之助 中村彦

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

上上 井中久米之助 日産

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index of items, possibly related to the illustrations on the opposite page.

假者子位算

大坂月録

一九が曲舞の

中楽

ちま子の

舞

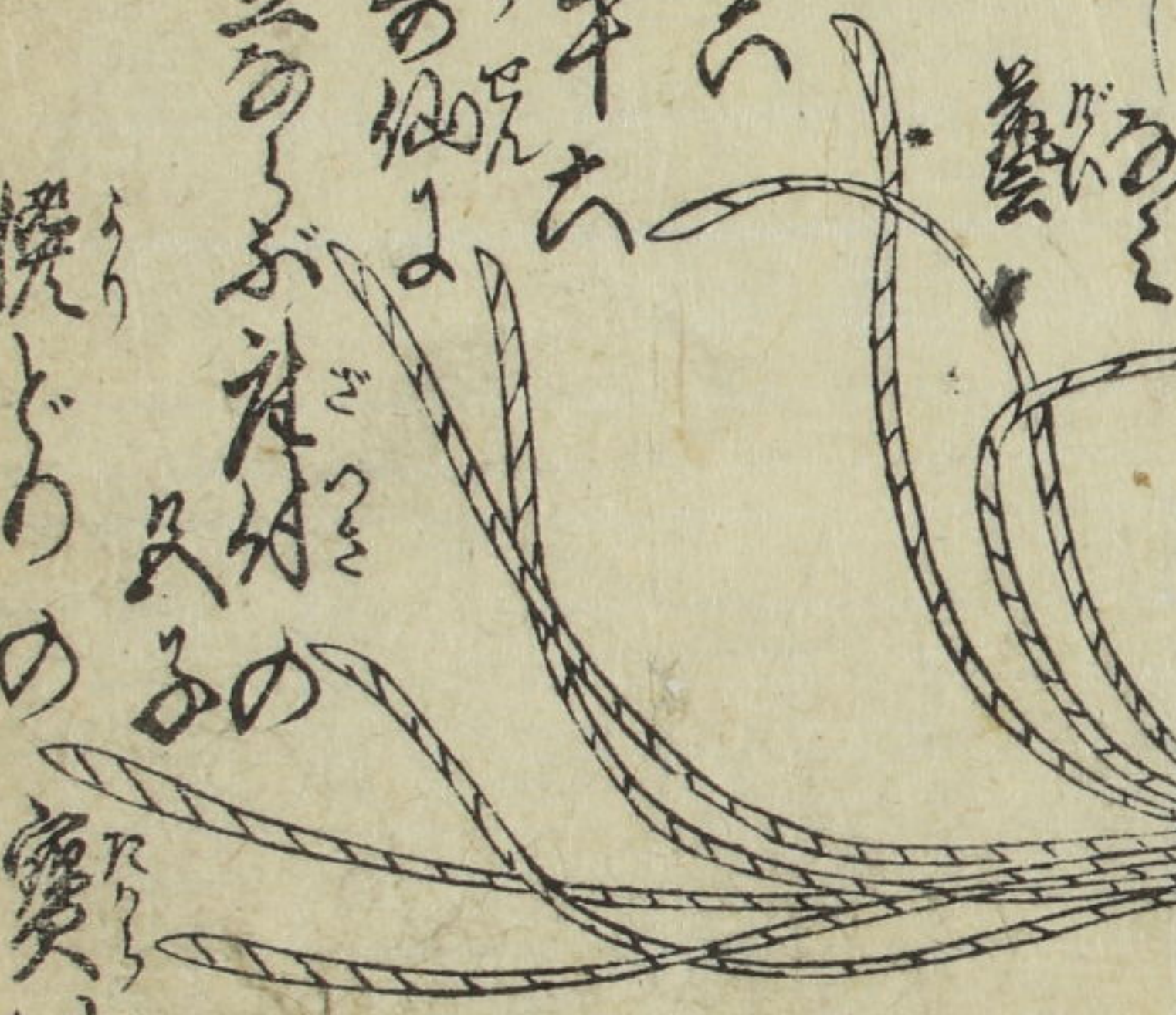
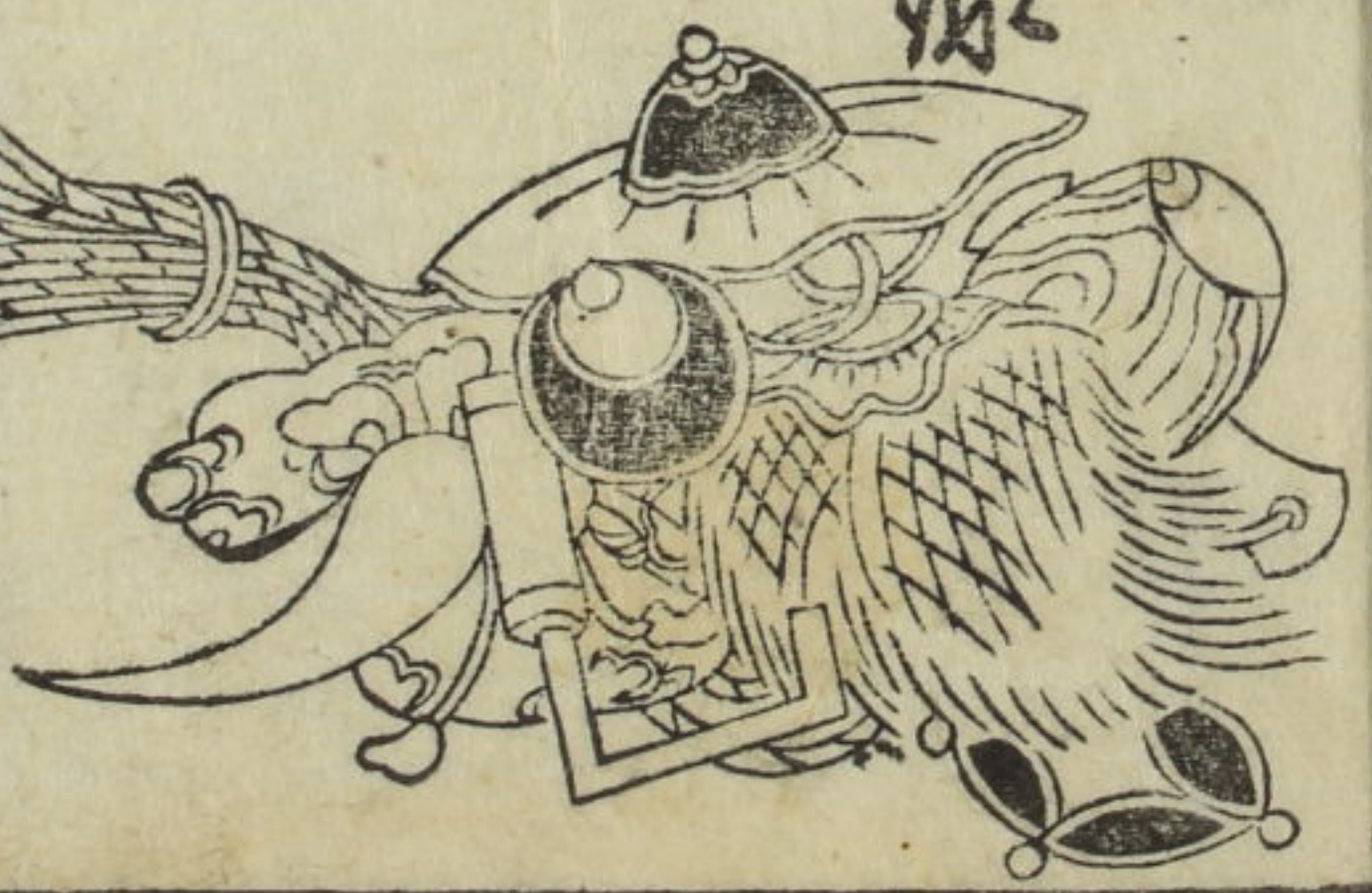
大六

二平六

寄仙よ

立のぶたけの

撰りのの 寶



上吉 岩井庄市 中村庄

上吉 藤場庄市 中村庄

上吉 津打市 市庄

上吉 深井市 市庄

上吉 梅山庄市 中村庄

上吉 山下又市 市庄

上吉 坂東物市 市庄

上吉 尾市 市庄

上吉 坂東庄市 市庄

上吉 中村市 市庄

上吉 尾市 市庄

上吉 尾市 市庄

上吉 尾市 市庄

上吉 中村市 市庄

上吉 中村市 市庄

上吉 尾市 市庄

上吉 尾市 市庄

上吉 尾市 市庄

岩井庄市 中村庄

藤場庄市 中村庄

津打市 市庄

深井市 市庄

梅山庄市 中村庄

山下又市 市庄

坂東物市 市庄

尾市 市庄

坂東庄市 市庄

中村市 市庄

尾市 市庄

尾市 市庄

尾市 市庄

中村市 市庄

中村市 市庄

尾市 市庄

尾市 市庄

尾市 市庄

上上吉

沢村宗八郎 中村左
忠伸の孫合よ孫と経傳

上上吉

山本小平次 市窪
拾骨が身と氣味乃らふ人太極

上上

堀川千景 堀川
と子の苗字通付を兼も考極

上上

若川文彦 日産
坂本又十郎 中村左

上上

正上 尾秀次郎 正上 市山 市山 市山
中村 中村 中村

上上

▲道藏之邦
大雲 百物 中村左
乃らうと温まうか 魁の極

上上

正上 尾助三郎 市山 上 市山 市山 市山
▲親仁飛之邦

上上

山中 橋十郎 堀川左
坂本 橋十郎 市山左

上上

▲花車飛之邦
小川 又吉 市山 市山

上上吉

正上 留平 市山 市山 市山 市山 市山

上上吉

▲若女飛之邦
堀川 市山 中村左

上上吉

芳澤 あやめ 市山 市山

上上吉

嵐 小 六 堀川左
まのとのぬりえとる 秋極

上上吉

中村 富十郎 中村左
かきももも今とるの極

上上吉

嵐 小 三 堀川左
秋極の風修へまのの極

上上吉

三保 本七 市山 市山
か造者よぬりえとるの極

上上吉

市山 氏之助 中村左
か造者よぬりえとるの極

上上書 芳沢橋之助 橋元

かよひの橋元下子芳沢のり橋

上上書 藤橋三右衛門 日産

はるよしの藤橋三右衛門の妻三橋

上上書 右田万右衛門 市産

父のりつとことろの藤橋

上上書 沢村惣之井 市産

一母のりつとことろの藤橋

上上書 大和川のり 市産

かよひのりつとことろの藤橋

上上書 小堀川龜藏 市産

山崎のりつとことろの藤橋

上上書 中村のり 市産

中村のりつとことろの藤橋

上上書 八重八 市産

八重八のりつとことろの藤橋

上上書 保日産

保のりつとことろの藤橋

上上書 小式部 市産

小式部のりつとことろの藤橋

上上書 中村のり 市産

中村のりつとことろの藤橋

上上書 山下全吾 市産

山下全吾のりつとことろの藤橋

上上書 中村のり 市産

中村のりつとことろの藤橋

上上書 一保のり 市産

一保のりつとことろの藤橋

上上書 一保のり 市産

一保のりつとことろの藤橋

上上書 一保のり 市産

一保のりつとことろの藤橋

上上書 一保のり 市産

一保のりつとことろの藤橋

以上

▲板垣のやまきり

助六夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も
梅 梅情太平記 全部五卷

梅情太平記 全部五卷

若狭夜半梅のたけの真も月日
梅 梅情太平記 全部五卷

若狭夜半梅のたけの真も月日
梅 梅情太平記 全部五卷

大系圖 蝦夷噺 全部五卷

若狭夜半梅のたけの真も月日
梅 梅情太平記 全部五卷

若狭夜半梅のたけの真も月日
梅 梅情太平記 全部五卷

月毎の夜半小嵐のさき

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

梅の夜半梅のたけの真も月日
英 分り梅の香も新夜半梅の香も

このりとも奉方の種本等一あり
ぬ編者も先初れとごらんとい
らふ事はた川門よりあふぬは身新
は出来しと候ねに候るなりを概
敷つて守路の川守りともふありが
ひしよるにござひの半はよぬござま
よりの時の後る舎よ交られ得れ
ぬ長谷川が我敷の端流りせご
近懸りも大後るた敷よひ川外
の川敷はさる大政天祥文の川さ
りもくよせよご境内のは商人
推しと候なり心もたれよふのま
よの橋はよ給に藤子の勢ごと
申すは世のそのの深淵酒一ら市
の死及編り深分の化市海女の

小波瀬りござも首振りくのまの
御申すの御えらしと人將よれま
と後るのまの御あましとまも
各の海の家よ御人なましと
小波瀬りもたれりかたを後藤集の
系流もふの小河りな御つと
まら及の白ご板もたのしと
て立るゝぬ二人と申す今更
ろくごぬりしとたれりかたを
の清きもくたて候るりよて
入るらるのてな候のての御
たれりかたもたれりかた
後その御人なふひも
お候りて御まびと
いふとたれりもたれり

二引錦幡幕
中村彦
龍見世

中村彦
龍見世

中村彦
龍見世

中村彦
龍見世

中村彦
龍見世

中村彦
龍見世

ても大坂中が海へ入つてゐる暇は
 だめが^① ^② ^③ ^④ ^⑤ ^⑥ ^⑦ ^⑧ ^⑨ ^⑩ ^⑪ ^⑫ ^⑬ ^⑭ ^⑮ ^⑯ ^⑰ ^⑱ ^⑲ ^⑳ ^㉑ ^㉒ ^㉓ ^㉔ ^㉕ ^㉖ ^㉗ ^㉘ ^㉙ ^㉚ ^㉛ ^㉜ ^㉝ ^㉞ ^㉟ ^㊱ ^㊲ ^㊳ ^㊴ ^㊵ ^㊶ ^㊷ ^㊸ ^㊹ ^㊺ ^㊻ ^㊼ ^㊽ ^㊾ ^㊿ ^一 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百



市七助入部

彦幸

①

②

③

④

⑤

其後せむ十月三日つらむ孫兵衛と
 孫兵衛の天井川の道徳の徳とひ

式三番扇軍
 大和川あり
 大和川あり
 大和川あり



大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり



大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり

大和川あり


大和川あり

大和川あり

大和川あり

とてまうとて婦人の傍かまぐら

上吉  中山朝九帝 倭皇

 去来の事なるを記すは、その事なるを記すは、

忽ちの事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

此の事なるを記すは、その事なるを記すは、

何れは、その事なるを記すは、その事なるを記すは、

大も運送のりげぬる幕とのきりて
なすていふ及分て近々の評判はたなく

上吉回 是又川を三節一節後

各節の地をめぐりて入るるてぬる業
忠告の軍の中し原さるるの事なるは

中しぬる業同深さるる事の事なるは

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

運送のりげぬる幕とのきりて

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

運送のりげぬる幕とのきりて

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

運送のりげぬる幕とのきりて

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

運送のりげぬる幕とのきりて

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

運送のりげぬる幕とのきりて

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

運送のりげぬる幕とのきりて

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

運送のりげぬる幕とのきりて

各節の事なるは各節の事なるは

同し各節の事なるは各節の事なるは

上上吉 中村宗十郎 市宛

○ 中村宗十郎の事 中村宗十郎は丹波赤松
郡の赤松村に生れし者なり。幼少より武勇に
長じ、父の死後、家業を継ぎ、赤松の地を治
め、民を安んずるに努め、其の功績を著せり。
其の事蹟は、後述の如し。其の死後、其の子
宗十郎が、赤松の地を治め、民を安んずるに
努め、其の功績を著せり。其の事蹟は、後
述の如し。其の死後、其の子宗十郎が、赤
松の地を治め、民を安んずるに努め、其の
功績を著せり。其の事蹟は、後述の如し。

▲ 教役之部

上上吉 中村宗十郎 市宛

○ 中村宗十郎の事 中村宗十郎は丹波赤松
郡の赤松村に生れし者なり。幼少より武勇に
長じ、父の死後、家業を継ぎ、赤松の地を治
め、民を安んずるに努め、其の功績を著せり。
其の事蹟は、後述の如し。其の死後、其の子
宗十郎が、赤松の地を治め、民を安んずるに
努め、其の功績を著せり。其の事蹟は、後
述の如し。其の死後、其の子宗十郎が、赤
松の地を治め、民を安んずるに努め、其の
功績を著せり。其の事蹟は、後述の如し。

上上吉 中村宗十郎 市宛

○ 中村宗十郎の事 中村宗十郎は丹波赤松
郡の赤松村に生れし者なり。幼少より武勇に
長じ、父の死後、家業を継ぎ、赤松の地を治
め、民を安んずるに努め、其の功績を著せり。
其の事蹟は、後述の如し。其の死後、其の子
宗十郎が、赤松の地を治め、民を安んずるに
努め、其の功績を著せり。其の事蹟は、後
述の如し。其の死後、其の子宗十郎が、赤
松の地を治め、民を安んずるに努め、其の
功績を著せり。其の事蹟は、後述の如し。

の首の才多し蓋の行向し次は安下家下
及の此の働の言の言分五身の時分一とく

上上書 ① 山中平十郎 柳屋

① 高田の城が城中に依る事平とあり
其の坊は海を一夜去り多うが家の形分の
地を懐中二人の地分は言はば内々高田
東坊は城場掃き平より出陣は高田の味と
平対て出陣する人及びて城は海を去り
あがたの言分を海原に置程よ公言言
食言事ともあがり及女平より討てて
陰謀の事を知りぬかたなるのちや東坊
女海の形分掃き平より出陣は海を去り
よ海原に置程よ公言言 林城巻大巻の
巻目一巻三巻

上上書 ② 沢村宗六郎 中村左

② 高田の城が城中に依る事平とあり
其の坊は海を一夜去り多うが家の形分の
地を懐中二人の地分は言はば内々高田
東坊は城場掃き平より出陣は高田の味と
平対て出陣する人及びて城は海を去り
あがたの言分を海原に置程よ公言言
食言事ともあがり及女平より討てて
陰謀の事を知りぬかたなるのちや東坊
女海の形分掃き平より出陣は海を去り
よ海原に置程よ公言言 林城巻大巻の
巻目一巻三巻

上上書 ③ 山中平十郎 柳屋

③ 高田の城が城中に依る事平とあり
其の坊は海を一夜去り多うが家の形分の
地を懐中二人の地分は言はば内々高田
東坊は城場掃き平より出陣は高田の味と
平対て出陣する人及びて城は海を去り
あがたの言分を海原に置程よ公言言
食言事ともあがり及女平より討てて
陰謀の事を知りぬかたなるのちや東坊
女海の形分掃き平より出陣は海を去り
よ海原に置程よ公言言 林城巻大巻の
巻目一巻三巻

上上書 ④ 柳川千代 柳屋


④ 高田の城が城中に依る事平とあり
其の坊は海を一夜去り多うが家の形分の
地を懐中二人の地分は言はば内々高田
東坊は城場掃き平より出陣は高田の味と
平対て出陣する人及びて城は海を去り
あがたの言分を海原に置程よ公言言
食言事ともあがり及女平より討てて
陰謀の事を知りぬかたなるのちや東坊
女海の形分掃き平より出陣は海を去り
よ海原に置程よ公言言 林城巻大巻の
巻目一巻三巻

おとぼけの形に似てはるる寒が草の如く春を去る
あまねく散るる花の如く秋の冷たさを感ずる
と雖も雅なまゝの美諦はなほあはれきり

月のあとの草子のあひ入るるをよき後悔
ぬく松の懐中世のあつたの事とぞいれぬの

下切浪の浜の待たぬ恋の運命は海を
曲舞ふはるるまはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

上吉  中村富士郎 中村彦

久留 衆人を教ふるは復申候の事ありの強
さ天候の晴るるまはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる


あはれはるる恋の如くはるる恋の如くはるる

女とて其の世の中の方外様寒のれも
 着うらぬの毎房かろくせやとぬるの風を
 不束の因縁はまゝ燃ゆつくと云はれ給へる
 侍は流はまゝのあぢきなくはれぬのまゝ
 かの女は悔さんとの口をき後二人の氏
 名が食後の場は微月の中に出て給事女
 女よかたは神様はまゝの世の中はまゝ
 江戸坂田屋まゝの世の中はまゝの世の中
 はまゝの世の中はまゝの世の中はまゝ
 がまゝの世の中はまゝの世の中はまゝ
 らるゝ病はまゝの世の中はまゝの世の中
 付しきまはれぬまゝの世の中はまゝの世の中
 唐氏まのゆりまゝの世の中はまゝの世の中
 わるゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 持事まの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中

上上吉



三保本七の世の中はまゝの世の中

且目續てまゝの世の中はまゝの世の中
 是れまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 けはれまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 ちのまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 因りまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 よ村付まゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 名はまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 打ぬまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 の世の中はまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 我はまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 一まゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 言はれまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中
 上上吉  葉海氏之世の中はまゝの世の中
 及向はまゝの世の中はまゝの世の中はまゝの世の中

山後などにも味も端川は入の茶
 を穀とうりやちもやまもむおまり
 と賀らんどうの難波のたを
 目出致事

二条通寺町角

泉の住法室の板

二条通寺町西入角

正本堂の云傍板

越後所通板の書下町

八文字堂の板

寛保四年甲子正月吉日

後者子後集

浮目録

一三〇

三人

文珠乃

恒若仲若

のり川

三又乃

十又乃

田舎大

輝子採

紙子採



四三十一席の畧図を

かひなくしるべし

三九二十七の物まで

三九二十七の物まで



打
うてゆる敬收の

中道より

又八始於此地成を

元人豊深の五乃守り固

沿人三吉極後者同縁

さく所 中村勲三席産

ふと所 市村守九席産

本所河 川系極後之助産

▲五後之部

○元吉が極後之部の極後之部

極上吉 市川海老蔵 中村

三吉の法人が極正極後之部

大上上吉 大谷廣 派 同産

ひをまよと海老蔵と市村の極後之部

上上吉 坂東彦三席 市村

三吉の法人が極正極後之部

上上吉 大谷 冠 派 中村

三吉の法人が極正極後之部

上上吉 中村七三席 同産

三吉の法人が極正極後之部

上上吉 氏谷十三席 市村

三吉の法人が極正極後之部

上上吉

坂田良十郎 川島

坂田良十郎の孫 坂田氏(世徳)編有

上上吉

高沢良十郎 西村

良十郎の孫 高沢氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 中村

良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉

三原良十郎 川島

三原良十郎の孫 三原氏(世徳)編有

上上吉

早川良十郎 中村

早川良十郎の孫 早川氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 日産

市川良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉

沢村良十郎 市村

沢村良十郎の孫 沢村氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 川島

市川良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉

山中良十郎 市村

山中良十郎の孫 山中氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 市村

市川良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉

松本良十郎 川島

松本良十郎の孫 松本氏(世徳)編有

上上吉

赤木良十郎 市村

赤木良十郎の孫 赤木氏(世徳)編有

上上吉

村上良十郎 日産

村上良十郎の孫 村上氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 市村

市川良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 日産

市川良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉

中物良十郎 日産

中物良十郎の孫 中物氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 市村

市川良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉

大谷良十郎 市村

大谷良十郎の孫 大谷氏(世徳)編有

上上吉

市川良十郎 市村

市川良十郎の孫 市川氏(世徳)編有

上上吉 中村助又市郎 商賈

男ありてはまゝの義徳社編荷

上上吉 中宿勤太郎門 中村

はゆい三子の多かり藤原編荷

上上吉 市川勤十郎 日産

後こよお後もまじ馬鹿の編荷

上上吉 文勝十郎市郎 商賈

大谷彦七 日産

上上吉 村山良次市郎 日産

上上吉 市村平十良川上 沢村法十郎 中

上上吉 生徳又市市上 淡橋孫次市川

上上吉 松平十良川上 片岡徳治市川

上上吉 仙石十良川上 坂東孫次良中

▲乃卯飛之部

上上吉 雲持茂平次 中村

ぬるとおのそと坊の穴の編荷

上上吉 嵐 吉八 商賈

凡るに世でもまゝの繁盛の編荷

上上吉 市村八十市市上 仙石十郎市川

上上吉 市川屋重中 市川又市郎 中

▲花車飛之部

上上吉 沢村源次市郎 中村

指本又次市郎 川島

▲若女飛之部

極上上吉 沢川榮之忠 中村

西郷の三三三三の編荷あり

沢川菊次市郎 中村

上上吉 尾三菊次市郎 日産

いふとくわいといふとくまゝの編荷あり

山本宗次 中村

上上吉 山本宗次 中村

かゝるまゝの編荷あり

上上吉 尾高之助 日産

かゝるまゝの編荷あり

上上吉 市川又次市郎 日産

かゝるまゝの編荷あり

一松平小源也 一淺尾景嘉 松平
一柴田勝家 一澁川半助 一
一柴田勝三 一柴田勝四 一
一松平千房 一筒井玄吉 一

▲あつた之部

上上 澁川秀重 中村
上上 風越三郎 日産

正澁川氏家市正市川國之良川

▲子役之部

上上吉 松平右三郎 中村
上上吉 子役の衆人非も侍也宿あり

松平右三郎 中村

正上松平七郎 市正上谷後段中

正上松平川力中 市正西尾段市

▲あつた之部

上上吉 中村勝十郎 中村

上上吉

市村満彦 市村

藝三

川原勝十郎 川原

藝三

中村勘三郎 市元

藝三

川原勝三郎 市元

大上吉

市村守左衛門 市元

▲山内之部

市川宗三郎 市元

市川宗三郎 市元

市川宗三郎 市元

市川宗三郎 市元

市川宗三郎 市元

市川宗三郎 市元

市川宗三郎 市元

市川宗三郎 市元

出入の蘆原の揚屋及び治左衛門方
一乗のしゝ大勝の伏せのうらびや
二勝の大並而與敵中て立物とて
の毒さうしよあ又のりそれ物や
のちれや細め今の刃のりたて
敵りの待しういほとく魚案と先
ぐさよち揚屋の色相もあ日の
かれは深さのりつるもあつて敵
の振返るまゝの初まてかひで
のやとけりうのまゝなれど
去るうらあ日くち海ひん敵
は案れし初村西うらうはて
東さうあさうあゝさうあ
りださる何をも扱扱して
し、侍のあゝさうの色
拙老の侍よもと今その氣を
色くさるぐれでもあつても
焼くよああの一ん咽よ風
斗さうく今日は家つ付て
只今候かゝ物付色もあ
候し難し一テとて打て
惜候候てれ物あまの
よあさうとあまの
れらる井宿の長
此の山とさうより
候とともあも
且候かゝり
まゝは案内
のしとと
し候まゝ

けさ後うらも人御小松山の附る幸
 甚もあつた重八事ありの月の海流
 を巨艦のありきたこの際もも何
 とそ運をたててよ身まはした家
 甲この夜もあ場ののれもそこ
 くゆくかおとゆ一もよあぬあさ
 とかしおきし由緒のあさ大曲も
 夫とさぞやくさうわらん我々も
 同のる艦も身好大い出令か居
 変のる甲申も初れ納下ぬさぬ
 ごとで三牧でそぬる艦もあつた
 艦一航いそよ兵今のは念のあや
 いかまひらふもあつた船のを吸付
 尽のも艦よ小夜さあつたるる光
 の長艦もあつたまあ身一航のあつた

あつたあつたえうあつたそよまぬ初め
 人盡のておてあつたあつたあつた
 と我のよ海を吹くあつたあつたあつた
 け系祭一あまよあつたあつたあつた
 よあつたあつたあつたあつたあつた
 なるあつたあつたあつたあつたあつた
 ごと一あまよあつたあつたあつたあつた
 小声あつたあつたあつたあつたあつた
 やあ一あまよあつたあつたあつたあつた
 かあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 せんあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 をあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

盡く由入アヲ去スル由アリセリ
しもの一姓様と云はる者あり
むとの小程系も一の分と男ひ
以後より毎日一葉の一葉も只
今様ありて海軍もよはれたが
あつたをそのの年中せうの足
るころこそその志をへとゆいられ
生が育ちた時代の味せうこの
あつたといふ始末とゆいせられ
あまたそのころの盡く列今月
がしもより一身体の徳徳に
いそがゆりてまはたしたの徳と
此がころ中も百廿七といふ
を家かぐろ現方にて一身体のお
後と云ふはむじと云はむじと云

末社も通るなり目出能の吸わ
くはよなるいふありてあんと
自物ありて連てともたわつた
後ありてお報三後七八人おと
命の中も目出たなりといふ
御ひつとてゆいりて大盡もゆい
らんありていふありていふ
れまよとありていふありていふ
とけいあたりの徳八とせう八と
あつたのありた様と云ふ一ありて
ふりていふありていふありていふ
ふりていふありていふありていふ
ていふありていふありていふあり
いふありていふありていふあり


贖身太平記
 中村彦
 頼丸世



中村彦十郎

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷



松尾

市川

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

大谷

中村

右一多の海内は其の地を分ちて其を
二の海に又分ちて其の地を分ち
其の地を分ちて其の地を分ちて其の地を分ち
上上 市川信忠 市川信忠
市川信忠の又分ちて其の地を分ちて其の地を分ち

上上 市川信忠 市川信忠
市川信忠の又分ちて其の地を分ちて其の地を分ち

て其の地を分ちて其の地を分ちて其の地を分ち
上上 市川信忠 市川信忠
市川信忠の又分ちて其の地を分ちて其の地を分ち



花時飾東鑑
川津彦
表九世

尚書令行着は侍候は只後任者也
 天皇養上天皇之教元と云ふ事
 此の次は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又後任者等の事なり
 此の事は又少長と云ふ事ありて

上上士回 市川幼十郎 中村

此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて

上上 文政十郎 中村

上上 文政十郎 中村

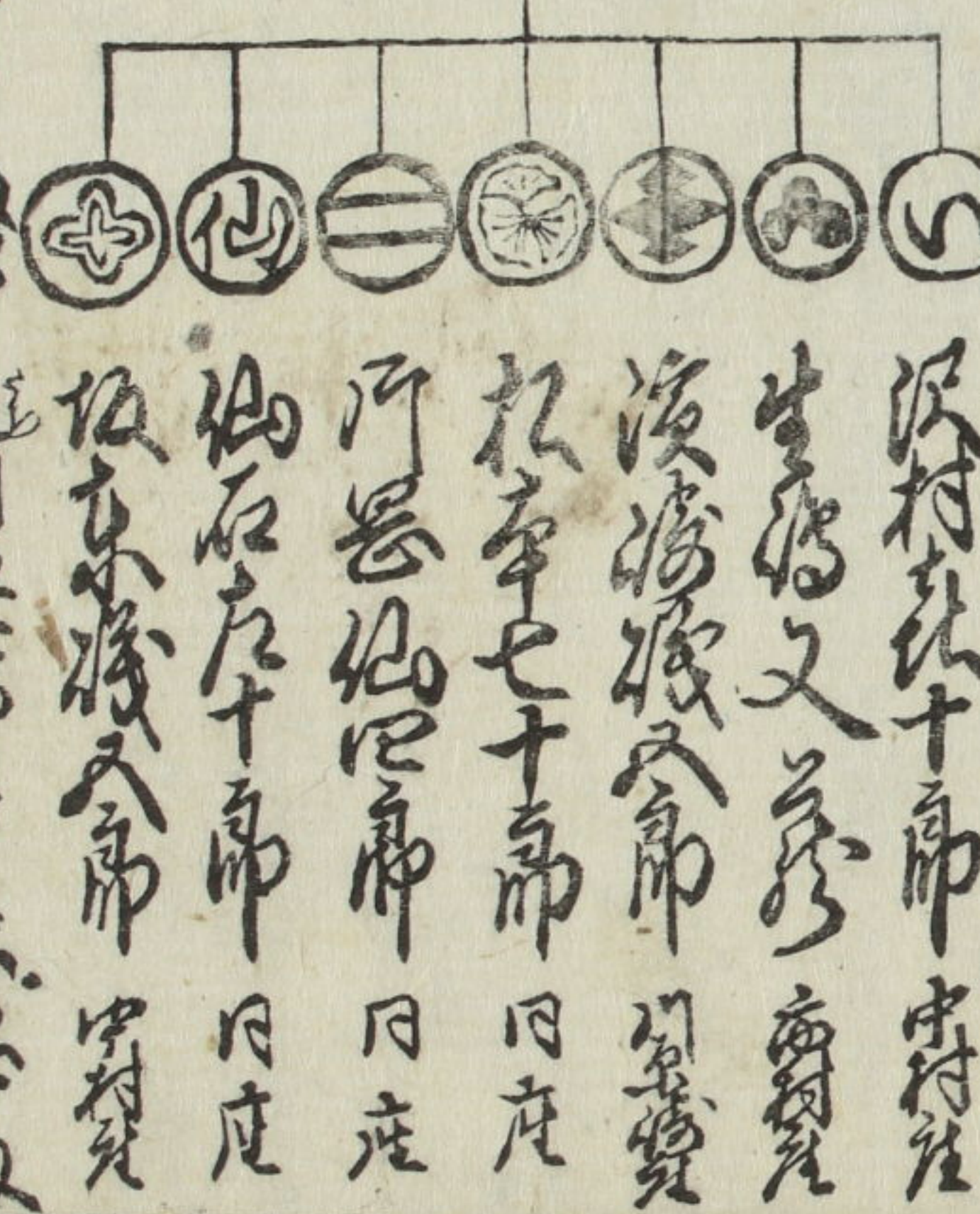
此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて

上上 村山良助 中村

上上 中村半十郎 中村

此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて

上




此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて
 此の事は又少長と云ふ事ありて

此後の別後後東より及八つが湯村まで
後助の女に我族を去後助の女に大妹を
上御の侍は男も女も皆ありとく

▲次車形之部


上上吉の 次村源治郎 忠實

此白の女の子は平七郎の女を
いふなりうの女をいふが路の七のと路
無女形之南の女をいふが路の七のと路
して今を大津の女をいふの女をい
波の女をいふの女をいふの女をい
乃上御の女をいふの女をいふの女をい
る侍は男も女も皆ありとく
の女中より男も女も皆ありとく
及八つが湯村まで
上  指平之次郎 川邊

此白の女の子は平七郎の女を
いふなりうの女をいふが路の七のと路

▲次車形之部

上上吉の 次村源治郎 忠實

此白の女の子は平七郎の女を
いふなりうの女をいふが路の七のと路
無女形之南の女をいふが路の七のと路
して今を大津の女をいふの女をい
波の女をいふの女をいふの女をい
乃上御の女をいふの女をいふの女をい
る侍は男も女も皆ありとく
の女中より男も女も皆ありとく
及八つが湯村まで
上  指平之次郎 川邊

